

ナプロアース社長通信_第7回

前回の続きから……事故・病気・災害など、ちょっとしたことで居なくなる事があるのです。

震災のあと、数名の社員と桑折町に避難して来ました。それから数日後、相浦専務（現：副社長）と川崎取締役（現：常務）で福島市内のおでん屋に集まりました。その時の会話は、「社長が会社を閉鎖するというのなら、私たちは避難先の県外で新たな生活をする」という内容でした。

確かに、何年も共に働いたベテラン社員が居なくなり、工場も避難区域に指定され立ち入ることも叶わず、私たちを支えてくれたお客さまも事業を停止している。こんな状況下で再開しても仕事を続けていくことは無理だと感じていました。その反面、長年ナプロで実績を積み上げてきたベテラン社員が、1から違う業種で仕事をする事の難しさを思いやったり、厳しい時代を共に乗り越えてきた本物の仲間と呼べる幹部と会えなくなる事を考えたりすると、寂しくてたまらない思いに駆られ、小さな規模でもいいから、もう一度会社を再開してみようと決心をしました。多分この二人が居なければ、私は会社を閉鎖する方向で動いていたと思っています。

以前に創業時の思い出を伝えたような奇跡的な出来事を噛みしめてみると、私を含めナプロの存在は必要とされ必然的に出来上がったんだと思います。何らかの使命や天命があるからこそ、初めて会った人が出資者となり、大家さんが助けてくれたり、メーカーの方々から支援を受けられたり、苦しくて自殺を考えたときも社員が止めてくれたりと、そんなひとつひとつが『世のため、人のために生かされている事』を教えられてきた過程だったんだと思い返しました。

再開すると決意してからは、設立資金を借りられる予定も立っていないにも関わらず、ただただ会社を再び立ち上げて、また復興できるものだと思っ信じて、相浦専務と川崎取締役で必要機材の見積りなどの準備を始めました。この時も、棚メーカーとして有名なジャロックの斉藤社長を含め、多くの仲間がナプロに救いの手を差し伸べてくれました。我々は自らのためだけに生きているのではなく、必要とされ生かされているんだと再認識できた瞬間でした。

私たちナプロマンは、再建時に多くの方から支えられてきた経験を活かし、社会貢献やボランティア活動を通じて恩返しを続けていこうとしています。地域清掃を含め、小さなことを積み重ねて地球環境にも貢献していきます。これは壮大であり、プライドのある役目です。また、「なぜ仕事をし続けるのか」の答えのような気がします。このような考えに賛同するナプロマンが増えていけば、地域社会も良くなると信じています。難しいことではなく、「自分にして欲しい事を人にしてあげる」という言葉があるように、行動すれば仕事も家庭も地域も円満になると考えます。私は、社長としてそのような社員が育ってくれることを一番の願いとしています。また、会社の収益性が向上すると共に、みなさんの福利厚生を充実させ、休日を増やし、給与も今以上に出来る会社を作っていきたい。そして収益の一部を社会の為、子供達の為に使っていきたくとも願っています。

みなさんが自分の子供達をナプロに入社させたくなる会社作り、カッコいい会社作り、仕事も遊びも一生懸命な会社作り、取引先や地域、そして同僚にも優しい感謝出来る会社作り。この為に今のナプロがある事を忘れないで欲しいと思います。

浪江にいた頃からの先輩社員達が、今のナプロの基礎を築いてきたのですから、今いる社員も経営理念や想いを引き継いで誇れる会社にしていきましょう。この続きは次回に。

※長崎県の同業者であり、NGPの委員会活動で活躍され、廃車ドットCOMの初期メンバーであった株式会社パーツラインの『多久島康彦』社長が、先日亡くなりました。この場を借りて、ご冥福をお祈りします。

平成 29 年 12 月吉日 池本 篤